

# ひょうごの遺跡

平成9年5月26日発行  
兵庫県教育委員会  
埋蔵文化財調査事務所  
神戸市兵庫区荒田町2-1-5  
☎652 TEL 078-531-7011  
FAX 078-531-7014

## 特集：平成8年度の発掘調査

県教育委員会では、平成8年度中に237件の発掘調査をおこないました。このうち104件は震災復興事業に伴う発掘調査で、全国各地の自治体からの支援職員が調査しました。調査をおこなった遺跡は北は但馬から南は淡路島まで全県下に及んでいます。今号ではこのうち主要な16遺跡を紹介します。

### 銅鏡・<sup>ことじ</sup>琴柱形石製品が出土—朝来郡和田山町 <sup>うめた</sup>梅田古墳群

平成8年12月から、播但連絡道路建設にともなって梅田古墳群の調査が始まりました。梅田古墳群は円山川左岸の尾根上に築かれた古墳群で、現在45基の古墳が確認されています。今回は1号墳～5号墳の5基の古墳を調査しました。

調査した古墳はいずれも木棺直葬墳で、1号墳と3号墳の棺内からたくさんの副葬品が出土しました。1号墳からは銅鏡・大刀などの金属製品のほかに玉・櫛などの装身具が出土しています。表紙の写真は銅鏡・<sup>ことじ</sup>琴柱形石製品・管玉・<sup>たてぐし</sup>豎櫛が出土している様子です。





## 梅田 1 号墳

1号墳は15m程度の不整形な墳丘に長さ約5mの長大な木棺を納めていました。棺内の遺物は4群に分かれて配置されていました。

第1群は棺の南端近くにあり、銅鏡1面・琴柱形石製品4点・豎櫛6点・碧玉製勾玉1点・碧玉製や緑色凝灰岩製の管玉8点・小型の滑石製勾玉88点・滑石製臼玉243点・針状の鉄製品15点からなります。

第2群は碧玉製勾玉2点・緑色凝灰岩製管玉20点で、棺に葬られていた人が直接身につけていたもののようです。

この2つの群の遺物からみて埋葬されていた人の頭位は南向きにあったと考えられます。

第3群は遺体の足下にあたり、直刀2点・鏃<sup>ぞく</sup>20点・鎌1点・斧1点・穂摘み具7点・刀子2点といった鉄器がまとまって並んでいました。

また第4群は棺の北端近く、土師器の壺1点・高杯3点と鉄製の穂摘み具2点からなります。

これらの遺物から古墳が築かれたのは5世紀の前半と推定できます。



梅田 1 号墳 棺内の遺物



梅田 3 号墳 鏡の取り上げ

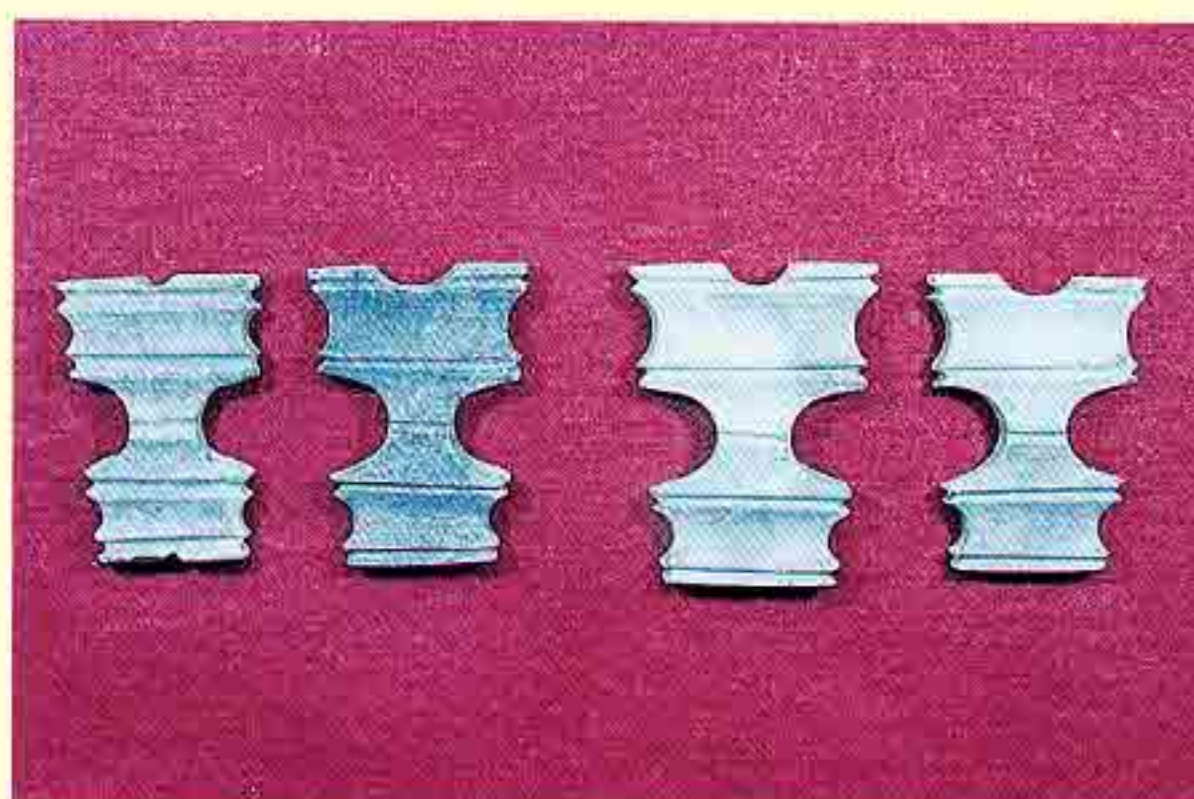
## 梅田 3 号墳

3号墳は3基の埋葬施設があり、第1・第2の二つの埋葬施設から副葬品が出土しました。第1主体からは須恵器と直刀、鏃や刀子などの鉄製品、そしてこの時期には珍しい銅鏡が出土しています。第2主体からも須恵器と刀などの鉄製品が出土しています。これらの遺物から古墳が築かれたのは6世紀中頃と推定できます。

### ここだけの遺物のはなし—琴柱形石製品

梅田1号墳からは4点の琴柱形石製品が出土しました。琴柱形石製品の名称は琴の弦を支える琴柱に形が似ているために命名されたものです。もともと玉杖<sup>ぎょくじょう</sup>という権威の象徴の一部を石でかたどったものだったようですが、次第にもとの形や意味が忘れられ、形が変化していきます。

県内では龍野市新宮東山2号墳・養父郡大屋町田和古墳で2個ずつ出土しています。梅田古墳群では2セットがそれぞれ滑石製の玉類とともに出土しており、装身具の一部として使用されていた様子が明らかになりました。



梅田 1 号墳の琴柱形石製品



## 弥生中期のムラに階層差—氷上郡春日町 七日市遺跡

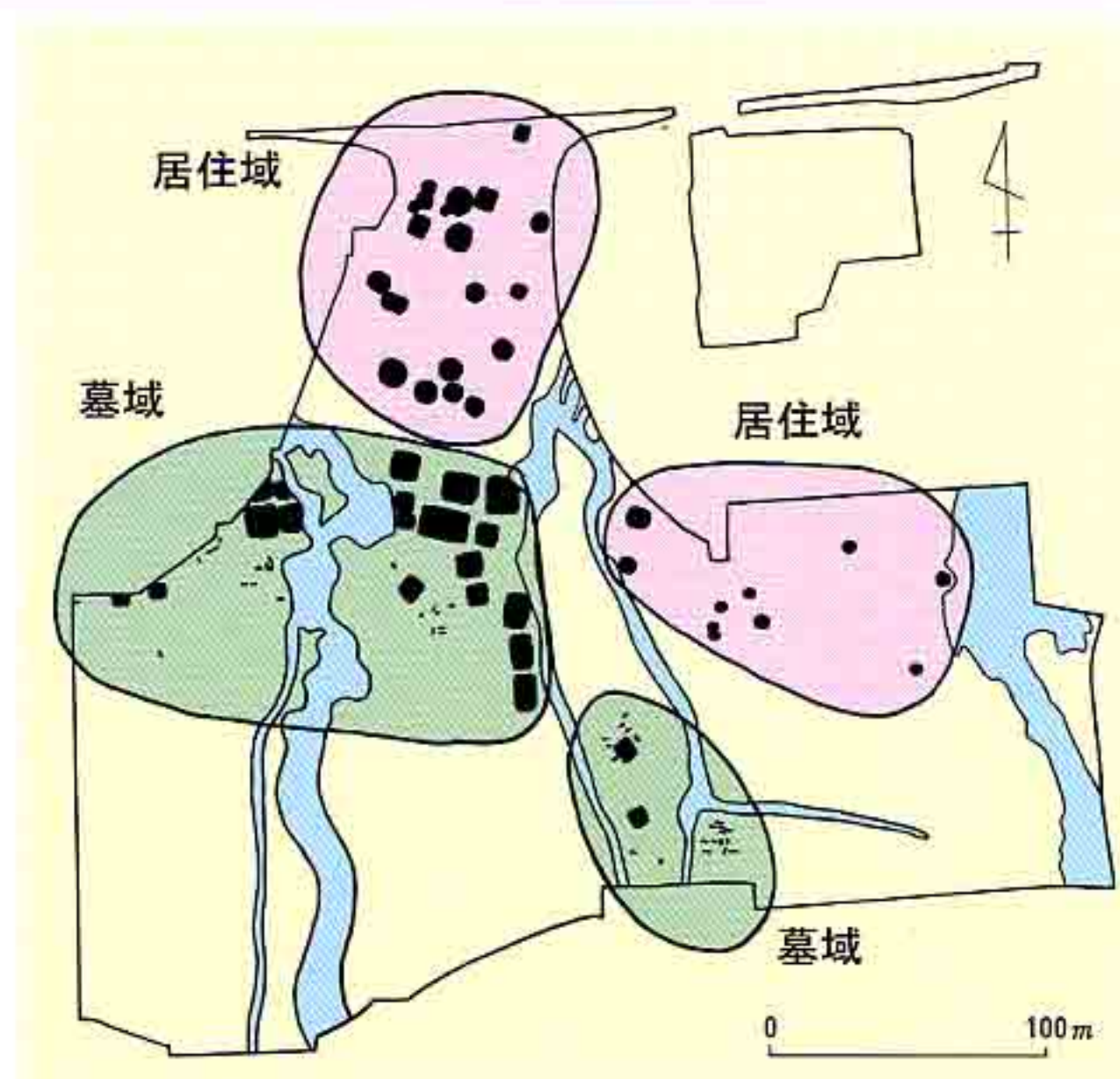
北近畿豊岡自動車道の春日ジャンクションの建設に先立ち平成5年から調査をおこなってきました。今年度までの調査で弥生時代のムラの全容がほぼ明らかになりましたので、これに基づき弥生時代中期後半（約2千年前）のムラの様子を紹介します。

今年調査した範囲では弥生時代中期の墓がたくさん見つかりました。墓には**方形周溝墓**と**木棺墓**というふたつの種類があります。方形周溝墓は周囲を溝で囲んで盛り土をした墓で、そこに木棺を納めるものです。木棺墓は何の区画もなく単に木棺を地面に埋めるだけのものです。

弥生時代のムラでは人が住む場所（**居住域**）と墓地（**墓域**）がはっきりと区別されており、居住域に隣接して墓域があります。七日市遺跡では居住域が東西のふたつのグループに分かれており、墓域もこれに対応してふたつのグループに分かれています。

西側の墓域は大型の方形周溝墓と少数の木棺墓によって構成されています。一方東側の墓域は小型の方形周溝墓と多数の木棺墓から構成されています。このふたつの墓域を比べると東側の墓域よりも西側の墓域の方が規模の大きな墓が多く、西側が東側よりも優勢であることがわかります。

一方居住域の方を見てみると西側の居住域にある竪穴住居の方が東側にある竪穴住居よりも大きいことがわかりました。居住域の方でも西側が東側よりも優勢です。このように弥生時代中期後半のムラに



弥生時代中期後半のムラ

は墓・住居のそれぞれに優劣のあるふたつのグループがあることが明らかになりました。また墓域をみるとそれぞれのグループの中にも方形周溝墓に葬られる人と木棺墓に葬られる人という優劣があることがわかります。

このように弥生時代中期後半のムラの中に、グループ間・グループ内の複雑な「階層差」があることが明らかになりました。このようなことはこれまでも予想されていたことですが、実際の遺跡の中で確かめられたのは七日市遺跡が全国でも初めてです。当時の社会構造を考える上で重要な発見です。



方形周溝墓群



木棺墓群



## 地すべりでこわれた井戸 — 神戸市東灘区

すみよしみやまち

住吉宮町遺跡（神戸市教育委員会への支援調査）

住吉宮町遺跡は、神戸市東部の住吉川西岸に広がる遺跡です。今回の調査では、奈良時代の井戸跡や掘立柱建物跡・溝などが検出されていますが、その中で井戸跡はとても興味深い状態で見つかりました。

この井戸跡は、円形に掘り込まれた「掘り方」の中に長さ約120cm、幅30cm、厚さ4cmの板材を四角に組んだ枠をすえていました。ところが、本来は直立しているはずの井戸枠が大きく南に倒れ込んだような状態で出土したのです。

この井戸枠のこわれ方、ズレ方から見て、井戸の上半分はかなり強い力が北から一気にかかり、南方向に押し倒されたようです。このような強い力とは「地すべり」と考えられます。

それではこの「地すべり」の原因は何だったのでしょうか。地すべりしたと思われる層の直下は、あらい砂の層となっていますが、その砂が上に噴き出そうとした「噴砂」が認められるなど、液状化現象が起きたことをうかがわせています。このことから、地すべりの原因としては、地震が考えられます。そ

して、液状化現象による地すべりを起こすような大規模な地震は、井戸がつくられた奈良時代以降、慶長伏見の大地震（1596年）しか知られていません。

今回の調査では、このようにはげしい地震による地すべりの痕跡を井戸枠がずれるという、目に見える形ではっきりと検出することが出来ました。このデータは、当時の地震の実態を知るだけでなく、地震によるさまざまな災害の起こるメカニズムの解明上も大きく役立つものと思われます。



地すべりでこわれた井戸

## 明治～昭和の酒蔵 — 神戸市灘区 沢の鶴大石蔵（神戸市教育委員会との共同調査）

沢の鶴大石蔵は「灘五郷」のうち西郷地区にある酒蔵で、県の有形民俗文化財に指定されています。沢の鶴資料館として公開され親しまれてきましたが、残念なことに震災で倒壊しました。今回資料館が再建されるにあたり、免震構造採用のため地下が深く掘削されることから全面調査が実施されました。

近世、「灘五郷」は「伊丹郷町」と並ぶ一大酒造地帯でありました。時期的には伊丹の酒造業の方が早く栄えましたが、樽回船就航以降、海岸にあるという地理的な条件の良さから灘の酒造業が栄えはじめたといわれています。しかし考古学的知見から見ると、伊丹では20例以上の酒蔵の調査例があるのに対して、灘地域ではこれが初めての調査例です。いわば灘の酒造業実態解明の第1歩を踏み出したといえます。

検出された遺構は近世末から戦前期にかけての酒造関連遺構が主体です。そのうち注目されるのは「船場」（ふなば）といわれる作業場の遺構です。「船場」とは麴と蒸米、水を混ぜて一定期間発酵させて作ったもろみに、圧力をかけて酒を搾り出す作業場のことです。今回検出された「船場」は大正から昭

和初期にかけてのもので、地面に穴を掘り周囲を石垣で固めた地下式のものです。「船場」からは搾った酒を受ける「垂壺」（たれつぼ）や「男柱」（おとこばしら）とよばれる柱跡も検出されました。男柱はてこの原理によって荷重の圧力で酒を搾るはね棒の支柱です。地下式の「船場」は作業をしやすくするための工夫と考えられます。伊丹で検出される「船場」が地上式であるのに比べて対照的です。

このような構造の差は地域差なのか時期差なのかわかりませんが、灘の酒造の実態を示すものとして興味深い資料です。



沢の鶴大石蔵の「船場」跡



室町時代の館の堀—神戸市 からわき 上脇遺跡

館に伴う堀を掘削しているところです。堀の幅は約10m、深さは約1.6mです。堀は室町時代後期には機能していましたが、江戸時代前期に埋められ、その間の日用雑器が大量に捨てられていました。

終末期の横穴式石室—姫路市 しおぶち 塩淵3号墳

古墳時代終末期（約1300年前）の古墳です。古墳を覆う盛土をはずして、石室をむきだしにしている写真です。残りがよかったので、中世（約1000～800年前）に再利用されています。

終末期の群集墳—加西市 じょうかくさん 状覚山古墳群

7基の古墳を調査しました。7世紀の後半に造られた終末期の古墳群です。石室内には石を組合わせた石棺を置いているものがありました。写真は15号墳で、石室内に2つの石棺が発見されました。

弥生～古墳の土器棺墓群—三木市 わだじんじや 和田神社遺跡

弥生時代末～古墳時代初めの土器棺が15基発見されました。土器棺は土器の中に遺体を入れ、穴を掘って埋めたもので、長い年月の間に棺の上部が内部に落ち込んだり、上部が流失していました。

弥生～古墳の住居跡—加美町 あらたじんじやうら 荒田神社裏遺跡

弥生時代末～古墳時代初めの住居跡4棟のほか、中世の銅精錬の炉跡と鉾滓を捨てた場所が発見されました。写真の住居跡は非常に残りが良く、深さが70cmもありました。

古墳時代の集落—姫路市 いちのこう 市之郷遺跡

古墳時代（約1500年前）の住居跡が5棟見つかりました。写真は遺跡の説明会の状況です。この住居跡は火災にあったため、竈には直前まで使われていた土器が残っていました。



弥生時代後期の周溝墓—市島町 うすの だん 上ノ段遺跡

見晴らしのよい丘の上に造られた弥生時代の終わり頃（約1700年前）の墓が5基みつかりました。写真はそのなかでも溝に囲まれた立派なお墓（周溝墓）です。棺はその中央の一つみつかりました。

屋敷跡から位牌出土—出石町 みやうちほりわき 宮内堀脇遺跡

山名氏居城の此隅山城の屋敷跡・土塁・堀の調査です。写真は出土した位牌を取り上げているところです。位牌には、表に「帰本 道祐禅門霊位」裏には「天文廿三年七月廿三日」と書かれていました。

古墳時代の豪族居館—神戸市 まつの 松野遺跡 ㊦\*

長田区にあり、古墳時代の豪族居館跡がみつかった遺跡として有名です。今回はその南東、およそ2,000㎡を調査し、倉庫らしい掘立柱建物跡群や遺跡内を空間的に区画する溝などがみつかっています。

武家屋敷の穴蔵—明石市 あかしじょう ふけ やしき 明石城武家屋敷跡 ㊦\*

明石城の武家屋敷跡から発見された地下式の倉庫です。中下級武士の屋敷裏庭にあり、階段がついていました。このような施設は穴蔵と呼ばれ、火災などにそなえて家財を収納したと考えられます。

中世の港町—神戸市 ひょうごつ 兵庫津遺跡 ㊦\*

写真は、兵庫津遺跡の礫敷き遺構から出土した中国製染め付け磁器で、『天文』銘が底にあります。天文は室町時代の終わり1532～1554年で、この頃中国（明）で日本向けに作られたものと考えられます。

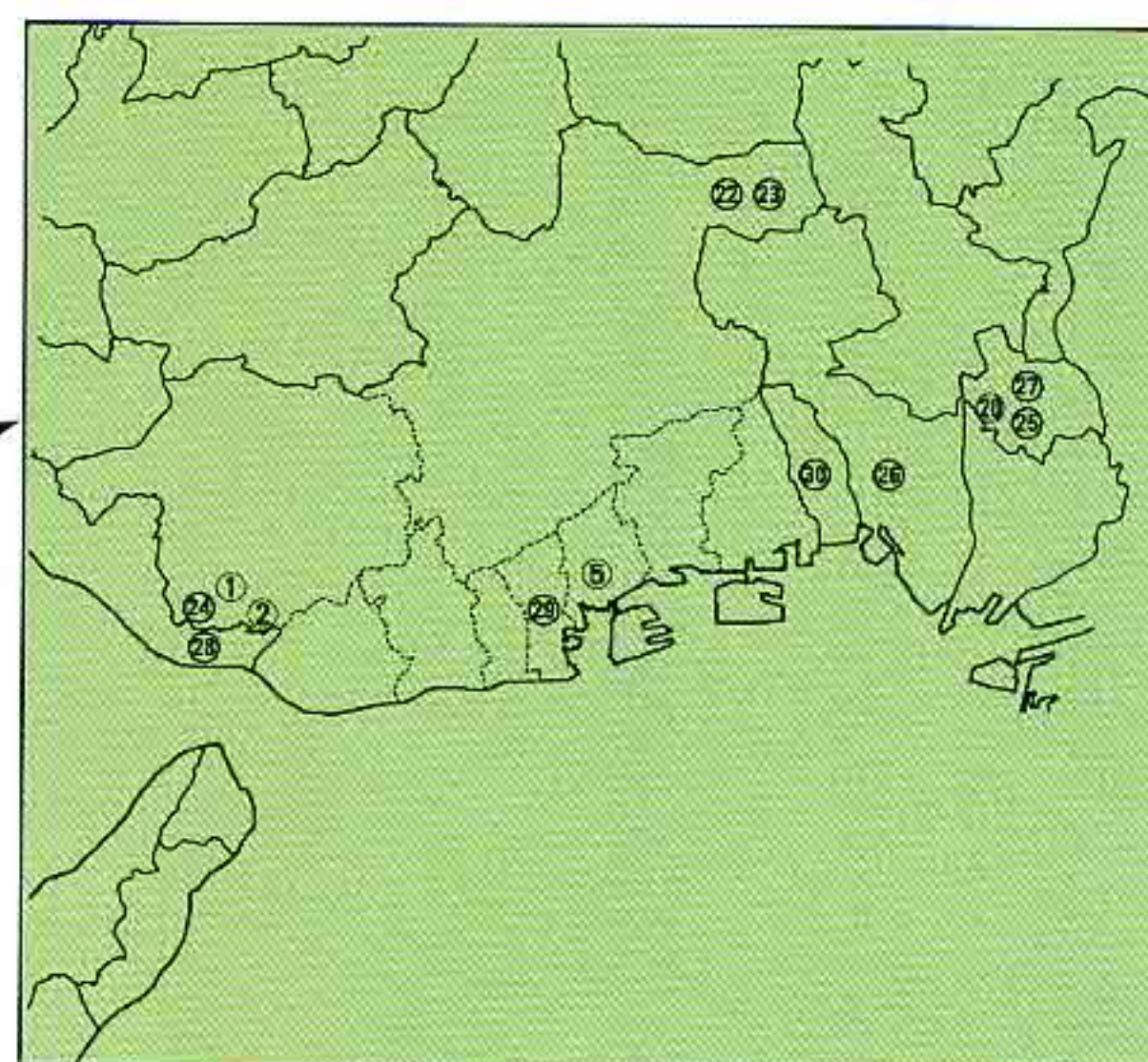
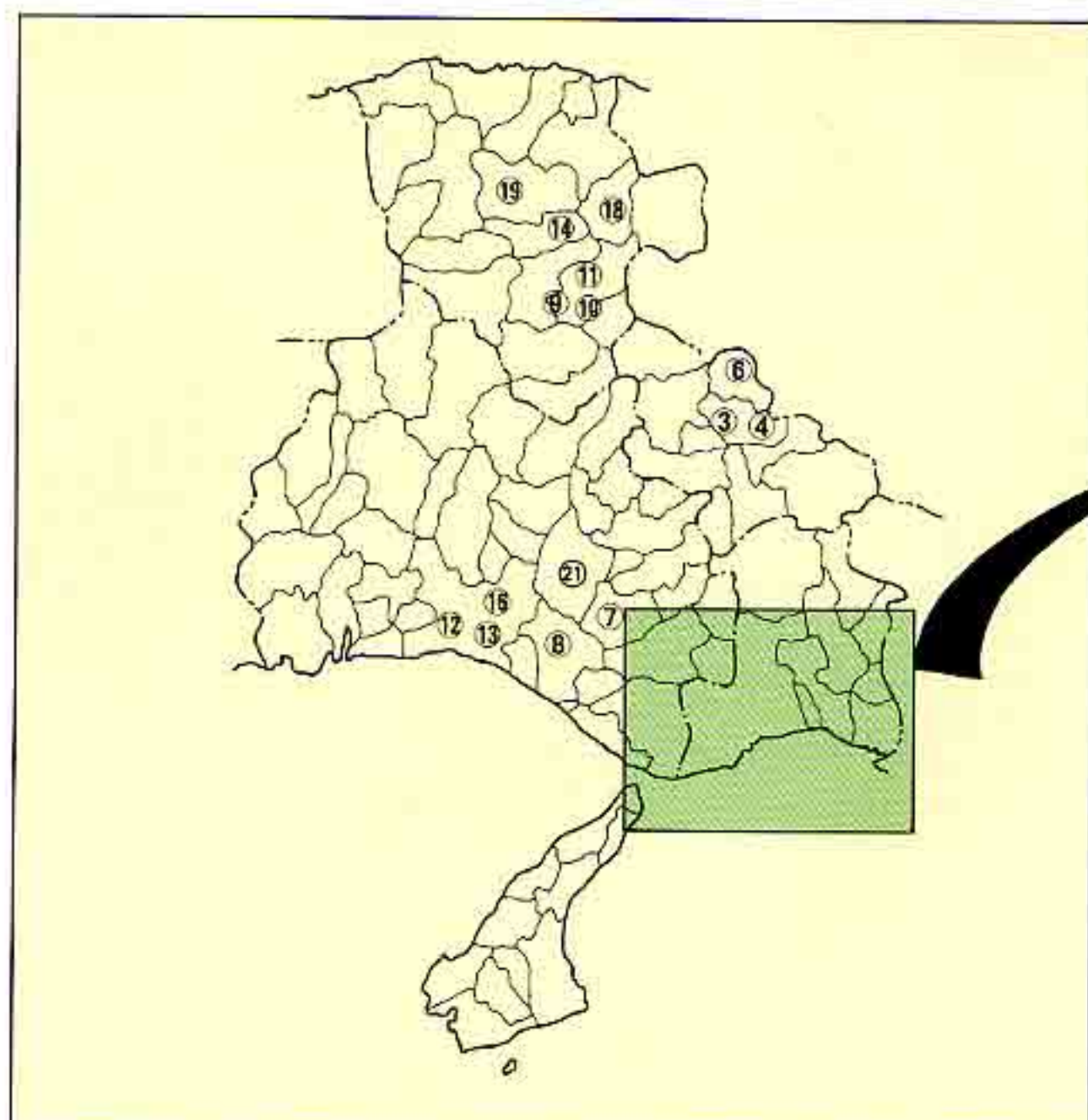
中世の掘立柱建物跡—神戸市 くさかべ 日下部遺跡 ㊦\*

中世（13世紀頃）の掘立柱建物が5棟みつかっています。うち3棟は中心線を合わせて、隣り合わせに建てられており、住宅と納屋・家畜小屋といった施設が組み合わさっている可能性があります。



## 平成8年度の主な発掘調査 (22～30は震災復興関連の調査)

	遺跡名	所在地	事業名	遺跡の概要
1	上脇, 長坂遺跡	神戸市西区伊川谷町	神戸西バイパス建設事業	古墳時代～近世の集落跡
2	表山遺跡			弥生時代の高地性集落跡
3	七日市遺跡	氷上郡春日町野村	北近畿豊岡自動車道建設事業	旧石器・弥生時代の集落跡
4	西野々遺跡			弥生時代の集落跡
5	楠・荒田町遺跡	神戸市中央区楠町	神戸大学医学部臨床研究棟建設事業	近世の集落跡
6	的場, 上ノ段遺跡	氷上郡市島町上竹田	国道175号道路改良事業	弥生時代～中世の集落跡
7	和田神社遺跡	三木市別所町	山陽自動車道建設事業	弥生時代～奈良時代の集落跡
8	投松窯跡群	加古川市志方町		平安時代の須恵器製作跡
9	梅田古墳群	朝来郡和田山町久留引	播但連絡道路(5期)事業	古墳時代の古墳群
10	東梅田古墳群			弥生時代～古墳時代の墳墓群
11	加都散布地	朝来郡和田山町加都	JR山陽本線等連続立体交差事業	縄文時代～中世の集落跡
12	市之郷遺跡	姫路市市之郷他		弥生時代～中世の集落跡
13	北条遺跡	姫路市北条		弥生時代～中世の集落跡
14	大田和遺跡	養父郡八鹿町小山他	但馬長寿の郷建設事業	古墳時代の集落跡
15	荒田神社裏遺跡	多可郡加美町の場	(注) 加美山崎線緊急道路整備事業	弥生時代の集落跡・中世の生産遺跡
16	塩淵3号墳	姫路市豊富町神谷	神谷ダム建設工事	古墳時代末期の古墳
17	久野々遺跡	津名郡北淡町仁井	一般農道整備事業	弥生時代・中世の集落跡
18	宮内遺跡	出石郡出石町宮内	県道町分久美浜線道路改良事業	室町・戦国時代の武家屋敷跡
19	山宮遺跡	城崎郡日高町山宮	農林漁業用揮発油税財源身替農道	縄文時代の集落跡
20	有岡城跡・伊丹郷町	伊丹市伊丹	県単独舗装繕繕工事	中・近世の集落跡
21	伏見山古墳群	加西市網引町	加西南産業団地造成事業	古墳時代末期の古墳群
22	日下部遺跡	神戸市北区道場町	㊦ 土地区画整理事業	弥生時代～中世の集落跡
23	八多中遺跡	神戸市北区八多町		奈良～中世の集落跡
24	丸塚遺跡	神戸市西区玉津町		弥生・室町時代の集落跡
25	南本町遺跡	伊丹市南町	㊦ 都市計画街路事業	奈良時代の集落跡
26	高畑町遺跡	西宮市高畑町	㊦ 県警西宮待機宿舎新築工事	弥生時代～中世の集落跡
27	北村遺跡	伊丹市鋳物師	㊦ 都市計画街路事業	平安時代の集落跡
28	明石城	明石市明石公園	㊦ 重要文化財修理	明石城石垣の修理
29	兵庫津遺跡	神戸市兵庫区	㊦ 一般国道2号線共同溝整備事業	中世～近世の集落跡
30	三条九ノ坪遺跡	芦屋市三条町	㊦ 被災マンション等再建事業	古墳～平安時代の集落跡



発掘調査を行った遺跡の位置

※番号は表に対応しています。



## 支援職員の異動

この度、下記の支援職員の方々が異動されました。3月31日付で38名の方が離任、4月1日付で13名の方が着任され、総勢25名になります。離任された方々には兵庫県の埋蔵文化財のために尽力いただきました。ありがとうございました。新たに着任された方々には阪神・淡路大震災にかかる復旧・復興事業に伴う調査に携わっていただきます。よろしくおねがいします。

(3月31日付 離任者)

都府県市名	氏 名	都府県市名	氏 名	都府県市名	氏 名
青森県	工藤 忍	静岡県	菊池 吉修	山口県	谷口 哲一
岩手県	鎌田 勉	福井県	鈴木 篤英	香川県	植松 邦浩
宮城県	菊地 逸夫	三重県	大川 勝宏	福岡県	吉田 東明
福島県	小野田義和	滋賀県	兼康 保明	佐賀県	小松 譲
群馬県	矢口 裕之		大道 和人	熊本県	宮崎 敬士
千葉県	神野 信	京都府	岸岡 貴英	長崎県	町田 利幸
東京都	伊藤 敏行	大阪府	今村 道雄	宮崎県	和田 理啓
神奈川県	中田 英	奈良県	大西 貴夫	大分県	友岡 信彦
埼玉県	岩田 明広	和歌山県	吉田 宣夫	鹿児島県	東 和幸
山梨県	小林 公治		武内 雅人	仙台市	金森 安孝
長野県	藤原 直人	島根県	目次 謙一	広島市	若島 一則
岐阜県	小淵 忠司	岡山県	弘田 和司	福岡市	中村啓太郎
静岡県	河合 修	広島県	青山 透		

(平成9年度の支援職員)

府県名	氏名	府県名	氏名	府県名	氏 名
茨城県	深谷 憲二 (継続)	京都府	石崎 善久 (継続)	鳥取県	家塚 英詞 (継続)
千葉県	半澤 幹雄 (継続)		藤井 整 (継続)	岡山県	氏平 昭則
埼玉県	中山 浩彦 (継続)		福島 孝行 (継続)	山口県	鈴木 卓
神奈川県	河野 喜映		奈良 康正	徳島県	岡山真知子
岐阜県	三輪 晃三 (継続)	大阪府	岡本 敏行 (継続)	福岡県	重藤 輝行
静岡県	丸杉俊一郎		禰宜田佳男 (継続)	佐賀県	渋谷 格
愛知県	佐藤 公保 (継続)		横田 明 (継続)	鹿児島県	大久保浩二
三重県	船越 重伸	奈良県	小栗 明彦		
滋賀県	上垣 幸徳	和歌山県	藤井 保夫		



### 編集後記

新年度が始まり、今年もたくさんの発掘調査が予定されています。震災復興事業に伴う調査をはじめとして播但連絡道路や北近畿豊岡自動車道の建設といった大きな事業に伴う調査が目白押しです。「ひょうごの遺跡」では今年も随時新しい発見をお伝えしていきます。楽しみにお待ちください。